



さとやま 2021年 夏号 (通巻155号)

■発行 特定非営利活動法人うしく里山の会  
〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1  
tel 029-873-8552 fax029-873-8552

■事務局 牛久自然観察の森内  
tel 029-874-6600 fax029-874-6812  
<http://ushiku-satoyama.org/>  
■編集 木谷昌史

# さとやま

～夏号～  
No.155

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌

1. 表紙 (観察の森バックの原)
2. お知らせ
- 3-5 プロジェクト活動報告
6. 裏表紙 (ウマノズグサとジャコウアゲハ)

## 事務局からのお知らせ

### 第17回通常総会のご報告

令和3年5月20日（木）第17回通常総会を牛久自然観察の森ネイチャーセンターで開催いたしました。議案書に記載していましたが全ての審議事項は、全て承認されたのでご報告いたします。

#### 結束町みどりの保全区

#### 「エコアップ」作戦参加者募集のお知らせ

牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町の「みどりの保全区」で行っている森林維持管理作業「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。

9～11月は下記の通り5回の実施を予定しております。雑木林の景観維持へのご協力を是非お願いいたします。

活動日：9月14日（火）、28日（火）、10月12日（火）、26日（火）、11月9日（火）

時間：9時～11時

集合場所：ネイチャーセンター 横の倉庫前

参加希望の方は：活動日の1週間前までに事務局までご連絡ください。

## プロジェクト活動報告

### 牛久自然観察の森指定管理者

### ひたち野うしく小学校出張出張前授業報告

金久 由美

今年も、ひたち野うしく小学校から出張授業のリクエストを頂いて、6月24日に2年生5クラス150人を対応しました。「生きものとなかよくなるう」をテーマに1時間目は教室で、何の虫の写真かが分からないように1人1枚を選びました。写真を見て「知ってるよ」「見た事ある」。元気な声が聞こえました。

次は、黒板を4分割して「チクチク、ネバネバ」、「毒を出す」、「かむ・はさむ」、「さわってもへいき」の4つの題に、選んだ写真の虫は、どこに入るか貼ってもらいました。クラスによって、テントウムシは「ねばねば」と「毒がある」の両方に入るからと、区分ラインの上に貼ったり、友達と相談して考えていましたよ。この4つの題には、「生きものが身を守る為に工夫している行動を知ろう」の副題が隠されていました。毒があるスズメバチが飛んでいる時に会ったら、怖いから手で追い払ったり、声を出したりしてハチを刺激しなければ何もしない事や、蜂蜜を取りに来る熊を警戒して黒いところにパトロールに来る時がある話しをすると、担任の先生が手を上げてくれて小学生時代の思い出を話してくれました。洗濯をした半ズボンの中にハチが入っていたそうです。ズボンの色は？に「黒かったかな」。子ども達から「虫とりに行く時は黒い服は着ないほうがいい」「甘い匂いはだめだね」の声が出ました。虫達の行動を知っていれば、出会ってもあわてないで対応することができますね。

次の時間は外に出て、ビオトープで生きもの探しを行いました。見つけた生きものは、何をしているのか、どんなサインを出しているのか、行動を観察してスケッチをしました。トンボの抜け殻やアメンボやタニシ、金魚、花に来ているハチ、クモ、アリ。敷石の下にはミミズ、ダンゴムシ、ハサミムシ。皆の観察力で学校の中でもたくさんの生きものが見つかりました。

森から連れて来たスズムシ、コクワガタ、ザリガニの飼育方法を知ってから、実際に触れて生きものはどうやって身を守っているのかも体験しました。コクワガタが入っているケースをそっと揺らすと、きゅっと手足を縮めて死んだふりをしました。ザリガニは触ろうとすると、後ろ向きに逃げたり、ハサミを振り上げたりしました。この夏休み、生きもの行動を良く観察して、もっと仲良くなってくれたら嬉しいです。

### 雑木林応援隊

### 暗渠（あんきょ）排水づくり

北寺 雄一

コロナ感染対策のため、皆で料理を行う機会がなくなり、水場利用の頻度も減ってしまいましたが、排水口の水はけが悪くなり始めていたことから、排水溝をリニューアルすることになりました。

前回実施したのは2年前だったと記憶しています。暗渠排水に利用する資材は竹です。竹暗渠は日本古来の工法らしく、私達が施工した排水溝は幅約1m・深さ1m（排水口から適度に勾配をとりながら）・長さ4mほどではありましたが、非常に骨が折れました。工程は2日間（一回の活動がほぼ半日のため）で行い、1日目（5月2日）は前日に火入れした炭焼きの状態を見ながら、合間に2～3名で穴掘りを実施しました。穴掘り作業中にまるまる太ったカブトムシの幼虫が数匹見つかり、土壌の良さも実感しました。

2日目（5月16日）は5～6名で竹の切り出しから実施。近くの竹林は枯れてしまっているとのことで（原因不明）、少し離れた園内外周に面した森内で、密集しているところを間引き、その場で軽トラックに載せられる長さに切断し炭焼小屋まで運搬しました。運搬後は枝払い、節抜き、水抜き穴開けの工程を経て、最後に水場の排水口の高さを調整しながら埋め立てして完成。

森の保全で伐採した竹を再利用しているので、材料費はかからず、ゴミも出ないのでとても気持ちの良い活動でした。



掘った穴に竹材を入れる作業の様子

私たちは2019年（平成31年）4月以来、春から秋にかけて毎月2回、「城中域の植物」を調べてきました。3年間の予定でしたが、昨年来のコロナ禍で十分な調査ができなかったため、2年延長することにしました。

**城中域とは：**ここで言う城中域とは、北西角が三日月橋北の水田、南東角が根古屋橋とし、牛久沼西岸と根古屋川に挟まれた約1km×1.5kmの範囲に含まれる城中町を対象としています。この狭い範囲内に牛久沼湖畔の湿地植生、城中台地斜面の半自然植生を残す照葉樹林帯、点在する人工林や農耕地、および耕作放棄地、急激な開発の進む住宅地や道路網など、様々な環境がコンパクトに封入されています。そのため様々な生育環境に適応した植物が現存するホットスポットでもあります。また、牛久城のあった城中は、古い植生が比較的保護されてきた場所でもあります。里山の会ではすでに十数年前から繰り返し調査を行ってきました。その中で城中では41種の希少植物が見つかっています。今回は現地で確認されたラン科植物について報告します。

**城中はランの宝庫：**2年間に確認されたラン科植物は表に示すように10種に及びます。表は開花期順に並べてあります。評価欄は2019年に刊行された牛久市のレッドデータブック（RDB、註1）における評価が書かれています。キエビネは恐らくかつて植栽されたものと思われるが、昨年盗掘されたか消滅しました。またネジバナは日の当たる芝地などにごく一般的にみられる植物で、RDBには指定されていませんが、残りの8種はすべて指定されています。とくにタシロラン以下の3種は茨城県RDB（註2）では「情報不足、注目種」に指定されています。3種とも葉緑素を持たない菌従属栄養植物で、最後の2種のヤツシロランは小さくて落ち葉の間で咲くので目立たず、2015年に本会会員によって牛久市で初めて確認された希少種です。

ラン科植物は姿や色が多様で愛好者が多いのですが、野生のランは菌と共生しているため庭や鉢で育てることは困難です。また野生下でも光や水の環境の僅かな変化でも姿を消してしまうこともあります。適切な林床

管理で安定した生育環境を維持したいものです。

註1) 牛久における絶滅のおそれのある野生生物  
 <植物編普及版> (牛久市版レッドデータブック追補版)  
 牛久市建設部発行 (2020年)

註2) 茨城における絶滅のおそれのある野生生物<植物編  
 2012年改訂版> (茨城県版レッドデータブック) 茨城県

表 城中で確認されたラン類

番号	種名	開花月	評価註1	備考
1	シュンラン	3-4	準絶滅	画像1
2	キンラン	4-5	絶滅危II	
3	エビネ	4-5	絶希IA	
4	キエビネ	4	植栽か?	盗掘
5	ササバギンラン	4-5	絶滅危II	
6	コクラン	6-7	希少	
7	ネジバナ	6-10		一般的
8	タシロラン	7	希少	画像2
9	クロヤツシロラン	9	希少	註2
10	アキザキヤツシロラン	9	希少	画像3



画像1 シュンラン



画像2 タシロラン



画像3 アキザキヤツシロラン  
 (画像1-3は秋山侃が城中で撮影)

毎年、向台小学校5年生と行ってきた根古屋川緑地での田植えは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から今年度についても中止となり、残念ながら執り行うことはできませんでした。ただ、7月になるとヘイケボタルが繁殖期をむかえ、地域の方々がホタルの鑑賞に訪れるので、観察しやすいよう周辺の草刈りとガイドロープ張りを行いました。

今年は雨が多かったためか、エノコログサやエノキグサ、イヌタデなどなど湿地とその周辺の草達は著しく繁茂していました。作業前は1日では到底間に合わないのではと思いましたが、メンバーと手分けをして草を刈っていくと、あれよあれよと作業が進み、スッキリと見違える景色と早変わりさせることができました。

ここでの生息地は限られていますが、豊富な雨に支えられたこともあり、今年は20匹ほどのヘイケボタルを確認できました。ヘイケボタルの幼虫はゲンジボタルの幼虫と違って、いろいろな貝類を捕食することができるので、そのような生態が功を奏し現在まで種を受け継いでこられたのかと、光るホタルを見ながら感慨の念にうたれた次第です。



草刈り後、草を集め仕上げを行うメンバー達